

Keep on smiling!!!

進路・移行支援部より



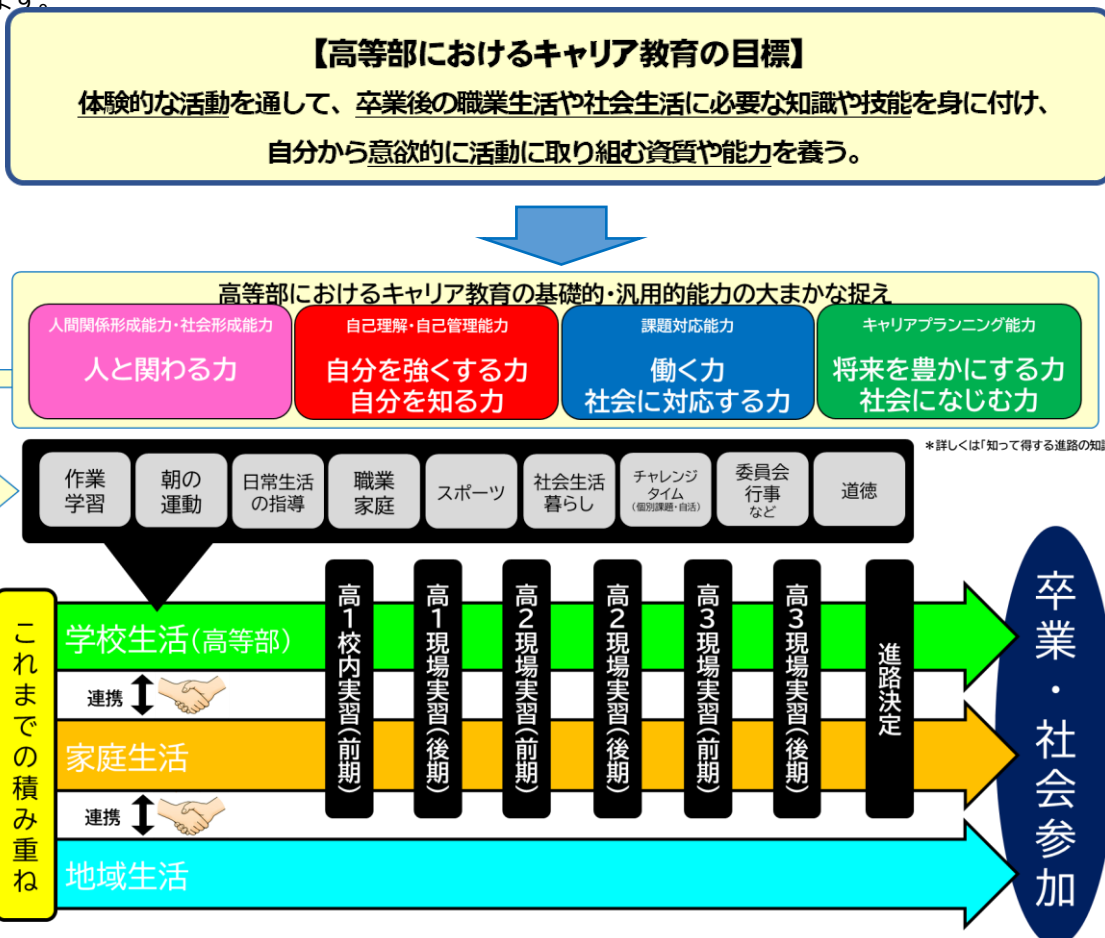
令和2年11月24日発行 文責：櫻井

【今回のテーマ】キャリア教育について（3）～高等部編～

今回は高等部の「キャリア教育」について説明します。キャリア教育は実際には、これまで学校でもご家庭でも実践してきている内容です。お子さんの卒業後（将来）の「自立」「社会参加」「豊かな生活」の実現を目指す上で、「こんな視点で見ていきましょう」「こんな力を付けていきましょう」と具体的に示されたのがキャリア教育の4つの能力（下図参照）です。「キャリア教育」と聞いて一歩下がるのではなく、日常生活や学校生活での何気ない取り組みが、「今やっていることは、将来こういう力につながるんだ」と絡めて考えてくださるとイメージしやすいと思います。高等部段階におけるキャリア教育についてお伝えするとともに、これまでの高等部での教育活動の様子、現場実習、研修等についてもお伝えできればと思います。

◎高等部のキャリア教育について

下図は高等部のキャリア教育と教育課程を簡単に示したものです。高等部は『作業学習』を中心とした教育活動と、年に2回行われる『現場実習』（基本一人で2週間）が大きな特徴といえます。高等部ではこれまでの積み重ねを土台として、より直接的に働く経験を通して、培ってきた力を社会で実際に発揮する、自分の適性や課題を知る、環境への適応力や人間関係の幅を広げることに努めていきます。また、作業学習以外の活動も関連させながら、教育活動全般を通して、卒業後、社会に出ても生き生きと楽しく学び、働き、力強く生きていくための行動力や実行力、心の育成を意識し、支援・指導しています。



*今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行による休校措置や社会状況の不安定さのため、現場実習が1回となってしまいました。現場実習の実施に当たっては、事前に福祉事業所の見学を設定するなど、実習先決定の準備をする機会を設けています。

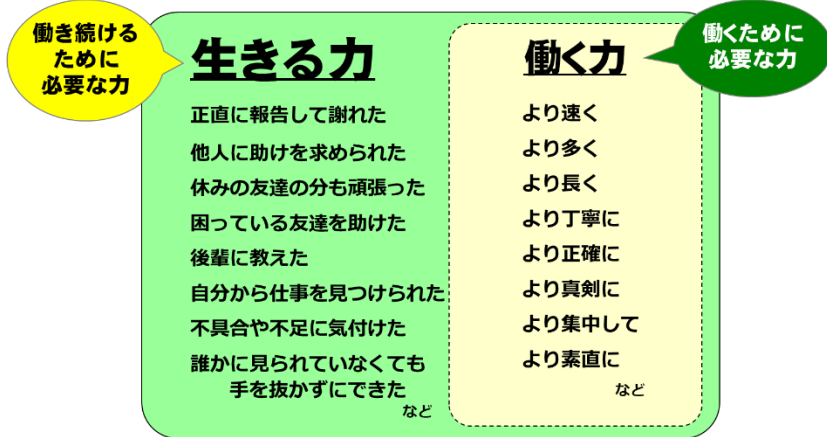
◎作業学習で育てたい力

先述の通り、本校高等部では、作業学習を中心的な活動として取り組んでいます。では、実際に「作業学習で育てたい力」は何なのでしょう。まずは、当たり前ですが、集中して、丁寧に、より速くなどといった「働く力」です。この力は「働くために必要な力」となります。そして、もう一つは「生きる力」です。この力は「働き続けるために必要な力」となります。

「生きる力」の内容を見ると、他者や社会との関わりの中でどう考えて行動・実行できるかという点に大きく関わっています。実際、現場に出て、働く力はあり、働くことはできていても、働き続けることが難しく、仕事を休む・離職するなどのケースがあります。作業学習では、「働くために必要な」自分自身の力、そして、「働き続けるために必要な」他者や社会と関わり、主体的に行動・実行する力を各作業班の実践で育てていきたいと考えます。

作業学習で育てたい力は？

渡邊昭宏 2014



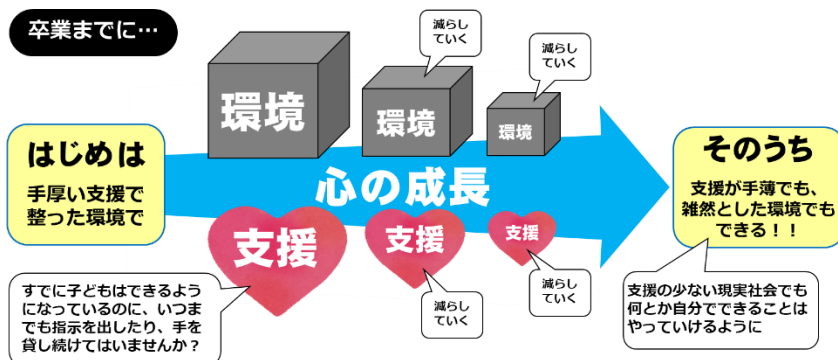
◎卒業までに、支援者としての私たちがすべきこと・今できることは…

現場実習に出ると分かりますが、実際の社会は、学校と違って支援・指導體制は確実に小さくなります。そんな将来を見据え、支援者としての私たちができること・留意しなくてはならないこと、それは「**徐々に（合理的な）手抜きをしていく！**」ということです。

できていることに対する支援は減らし、社会に出ても自然に対応できる力を付けていくには、学校職員や保護者の関わり方ひとつで大きく変わるのではないかと思います。お子さんのできること、課題を共に把握し、学校と家庭でバランスを取り合い、なるべく同じスタンスで成長を促していきましょう。

次に、高等部の生徒の様子、現場実習などを通して感じたことをお伝えします。それは、「**積み重ね（繰り返しの経験）は大事！**」「**普段の何気ない生活経験が働く力につながる！**」

ということです。身辺自立、挨拶・返事の大切さなどは、もう耳にタコができるほど聞いていることだとは思いますが、しかし、手袋やマスクをつける、配膳で盛り付けができる、給食をおぼんで運ぶ、テーブルを拭く、蝶結びができる、靴をそろえる、服をきれいにたたむ、などなど。普段の生活で普通にやっていることが、社会（実習先）で、また、働く上でこんなにも大きく絡んでいるのだと実感しました。例えばですが、マスクをつけるという行為。過敏で付けるのが難しい…、というお子さんがいらっしゃいます。そのとき、「この子はできないから…」とあきらめるか、「今はできなくても少しずつ慣れさせていこう」と粘り強くやっていくか。ほんのちょっとしたことだとは思いますが、そこでやるかやらないかで、将来の選択の幅を広げたり、狭めたりします。将来、食品を扱う仕事、受注作業、清掃作業など、「マスクをつけること」を求められる場面は多くあります。「そんなのいつでも大丈夫」と思われるかもしれませんが、そんな「ちょっとしたこと」が、将来のお子さんの働く力や社会性を広げる力につながってくると思います。「ちょっとしたこと支援」を続けていくと、きっと良いことがあると思います。



徐々に（合理的な）手抜きをしていきましょう！

渡邊昭宏 2018

◎最後に

卒業を控えた高等部では、まず「**できることは当たり前にする**」「**言われたことは言われた通りにしっかりやる**」が基本であると考えます。そこができていなければ、働くことは難しくなりますし、周りからも「何でできるのにやらないの？」と思われる。しかし、社会ではできないこともたくさんあります。そんなときのために「人に聞く」「手伝ってもらう」などのやりとり（伝える）のスキルを身に付けておく必要があります（できるのはいいのはNGです）。やりとりの仕方はそれぞれですが、自分なりの方法で伝える術を身に付けておけば、周りとのより良い関係づくりができていくと思います。将来子どもたちが、「自分から誠実にひたむきに働く」、「社会で必要とされる存在」となり、自分らしく生き生きと生活できるようにしたいと思います。